

# China Innovation

## 注目記事

### 新型イヤホン生産倍増

#### 米アップル 中国社、一手に受託

【台北＝黎子荷、鄭婷方】米アップルが新型ワイヤレスイヤホン「エアポッズ プロ」を増産していることが、サプライヤーへの取材で分かった。販売好調を受け生産ペースを当初の2倍となる月産200万台超に引き上げた。製造は中国の電子機器の受託製造サービス(EMS)大手、立訊精密工業(ラックスインシア)が一手に担い、米中貿易摩擦が激化するなかでも中国勢が存在感を高めている。

台湾などの複数のサプライヤー関係者が明らかにした。アップルは2016年に初めてワイヤレスイヤホン「エアポッズ」を打ち出し、今年10月末に騒音を遮断し音質を高めた高級機種「プロ」を発売した。ある関係者は「需要の伸びを受け、注文を当初の月産100万台から少なくとも200万台に引き上げた」と明らかにした。

アップルが重要な新製品の製造を当初から中国勢に任せるのは「極めて珍しい」(関係者)という。これまでは鴻海(ホンハイ)精密工業など台湾のEMSに依頼し、その後中国勢などに注文の一部を分散してきた。ラックスシアがこの慣例を破ったのは「品質や生産効率が極めて高いため」(サプライヤー関係者)で、同社は台湾勢中心の業界の秩序を崩す存在として注目を集めている。

中国勢はアップルの機器生産で存在感を高める。18年には主要サプライヤー約200社のうち中国(香港含む)勢は41社と、日米を抜き台湾に次ぐ2位に浮上した。米中摩擦に対応して生産の東南アジアシフトも進む。エアポッズの新型「プロ」は全量がラックスシアの中国工場で生産されている。ただ従来型はラックスシアのほか中国・歌爾声学(ゴートック)がベトナムでのテスト生産を始めている。

日本経済新聞朝刊 2019年11月28日 ※赤線は弊社による

当資料は日本経済新聞社の承諾を得て記事を転載したものであり、記事の内容について、日興アセットマネジメントが正確性・完全性について保証するものではありません。また、記事に関する一切の権利は記事の提供元に帰属します。発行者の許可を得て掲載しています。コピー等のご遠慮ください。

掲載銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当社ファンドにおける保有・非保有および将来の銘柄の組入れまたは売却を示唆・保証するものでもありません。



●当資料は、日興アセットマネジメントが「チャイナ・イノベーション」についてお伝えすることなどを目的として作成した資料であり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、当資料に掲載する内容は、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。●投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。